

研修実施報告書

1. 研修概要

- **研修名:** 第1回 訪問介護員法定研修「認知症および認知症ケア研修」
- **実施日時:** 令和 年 月 日() : ~ :
- **場所:** 事業所及び当社 eラーニングシステム内
- **講師:** 本社作成の動画講義の視聴
- **参加者:** 訪問介護員 名

2. 研修目的

- 認知症の定義および4大原因疾患の特性を正しく理解し、医学的背景に基づいたケアの知識を深める。
- 中核症状とBPSD(行動・心理症状)のメカニズムを学び、不適切なケア(身体拘束やスピーチロック)を防止する意識を醸成する。
- 利用者の尊厳を守る「パーソン・センタード・ケア」の視点を養い、訪問介護現場での具体的な対応力(入浴拒否や帰宅願望等への対応)を向上させる。

3. 研修内容

- ① **認知症の基礎知識:** 定義、加齢による物忘れとの違い、4大認知症(アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、前頭側頭型)の特徴。
- ② **症状の理解:** 中核症状(記憶障害、見当識障害、実行機能障害)とBPSD(不安、妄想、徘徊、拒絶等)の要因分析。
- ③ **認知症ケアの基本姿勢:** ケアの3原則(驚かせない、急がせない、傷つけない)、パーソン・センタード・ケアの概念。
- ④ **コミュニケーション技術:** 言語的・非言語的アプローチの具体的手法。
- ⑤ **事例検討(ケーススタディ):** 入浴拒否および帰宅願望への具体的な対応策。
- ⑥ **権利擁護と虐待防止:** 身体拘束禁止の規定、スピーチロックの弊害、環境整備の重要性。

4. 研修成果・理解度チェック

- 全参加者に対して確認テストを実施し、全員が合格点(または全問正解)に達するまで指導を行った。
- 各職員が認知症の特性やコミュニケーションの鉄則について高い理解度を示していることを裏付ける内容であった。
- 事後アンケートでは、「BPSDを『困った行動』ではなく『本人からのサイン』として捉え直すことができた」といった、ケアの質向上に繋がる前向きな意見が多く見られた。

5. 管理者所感・今後の課題

- 今回の研修を通じて、職員一人ひとりが認知症ケアの重要性と尊厳保持の原則を再認識することができた。
- 今後の課題として、実際のサービス提供現場で発生するより複雑な拒否事例や家族支援のあり方について、個別のケアプランに即した具体的なカンファレンスを強化していく必要がある。
- 知識の定着を図るため、今後も定期的な振り返り研修と、現場でのOJTによる実践指導を継続していく。

報告者名 _____